

活動の記録

3月15日(日) 晴

3月はコロナウイルス対応のため定例活動は中止しました。

ただ、この時期に実施が必要な植物調査等のため一部の会員が個別活動として島に入り、島外農地についてもこの時期必要な農作業を行いました。また、中央博物館の尾崎さん他2名の方がヒメコマツ試験地の年1回の調査等を行いました。前日とはうってかわった好天にも恵まれ、皆さんそれぞれの目的を果たして納得の一日だったようです。

参加は秋元、伊藤、鶴沢、及川、大原、栗山、坂本、中田夫妻と裕士君、成沢、福島、真鍋の会員13名、県中央博の尾崎様、平田様、八木様、県森林課の色川様も加わり総勢17名でした。

それぞれの活動内容は皆さんのミニレポートをご覧ください。

〇ヒメコマツ成長調査

県中央博尾崎先生のヒメコマツ成長調査にお手伝いさせていただきました。調査は樹高、根元径、幹径の測定と目視による観察です。調査の用具は5mの箱尺、ノギス、紅白の測量用ポールでした。

試験地Aは千年広場の西側で、まず保護柵内の調査をしました。ここには2,3年前4mを超えた木がありましたが、残念ながら枯れていました。この枯木を伐採した跡が残っていました。今では3mを超えるものが数本あり、一番高いもので4.3mに成長していました。遠目からわかるヒメコマツは節間が30cmほどあり成長の良さがよくわかります。とても美しい立ち姿をしていました。一方で倒木の下敷きになり瀕死の木が1本ありました。抑えられていた頭を倒木から引き抜きましたが、人指し指ほどの太さで樹高もひざ下程度です。周りの植物の背丈より低いため今後大きく成長していけるかどうか心配です。保護柵の外にある1本も他の植物に負けているのか1m程度の樹高でした。辺りには実生のアカマツが4mを超え2m程度の灌木が多数ありました。試験地Bは禁断の岬崖面で日当たり良好の場所です。崖面の調査は足場が悪いため踏ん張っての調査となりました。1本の赤茶け枯れたヒメコマツがありました。葉の付き具合から見て、去年の秋ごろに枯れたようだとのことです。原因としては、松くい虫の可能性があるとっておられました。その他のヒメコマツはみな健全な状態でした。

調査終了後、北側斜面を下りヒメフタバランの観察、千年広場へ帰る途中で、湖面に浮かぶホシハジロ12羽、満開のマメザクラを観察しました。(秋元)



樹高測定は5m箱尺で



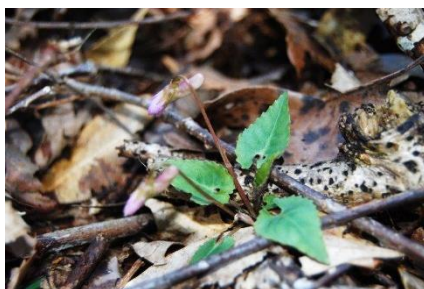
倒木の下敷で瀕死のヒメコマツ



禁断の岬の枯れたヒメコマツ

植物観察

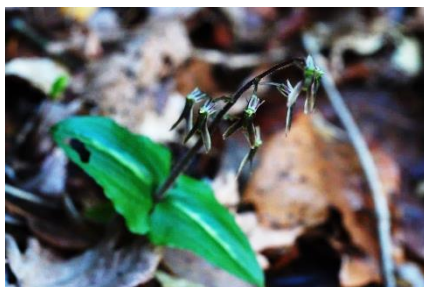
ヒナスミレがそろそろ開花時期となるので、写真撮影のために個別活動を行った。目当てのヒナスミレは、開花した個体はまだなく、今回はつぼみだけの確認となった。花が確認できた植物は、アセビ、オニシバリ、コショウノキ、スハマソウ、タチツボスミレ、ヒガンナムシグサ、ヒメフタバラン、マメザクラ、ミヤマシキミ、ヤブツバキ。花は確認できなかったが生育が確認できたのはコセリバオウレン、ツクシショウジョウバカマ。(福島)



ヒナスミレの蕾



タチツボスミレ



禁断の岬急斜面に咲くヒメフタバラン



湖岸北斜面に咲くスハマソウ(栗山)



ヒガンナムシグサ



ミヤマシキミ



コセリバオウレン



ツクシショウジョウバカマ



マメザクラ(秋元)



コショウノキ(栗山)



クロモジ(栗山)



オニシバリ(栗山)

○動物の痕跡 ニホンジカの採食痕多数、巨木林エリアの植生保護柵が破損し柵内の植物が激しい食害を受けていた。また、巨木林エリア一帯でイノシシが掘り返したような跡が多数見られた。(福島)



食害を受けたヒササキ



イノシシ?の糞



⇒⇒拡大画面



イノシシの掘り返し?

センサーカメラ休止中のため、確証が得られず残念です。

- シュンランの花が僅かしか見当たりません。昨年までは保護柵内には咲いていましたが、柵内も葉先を食いちぎられた株しか見当たりません。犯人はノウサギ?(真鍋)

○豊英島で各自の活動を楽しんだ1日

15日曜日、君津の豊英島で行われた「千年の森」の活動に、私たち夫婦と次男裕士の3人で参加しました。

私は、坂本さんの農作業を手伝ったり、島内の植物観察を楽しみました。淡い色の花を咲かせるマメザクラやクロモジの花は、柔らかい春の日差しに映えていました。こんなに暖冬でも木々はしっかりと季節を感じ取っているのを見てほっとするとともに、癒されました。

断崖絶壁のスハマソウ観察ツアーにも参加。いつもながら皆さんパワフル。真下に切れ落ちる絶壁の下り、湖に突き出した木からのスハマソウの撮影・・・怖かったです。探検っぽくてワクワクしました。



ヤマガラ

次男の裕士は竹細工に挑戦、竹の花瓶が自分で作れたと喜んでいました。



竹細工

この崖の続きには川廻し（千葉県上総地方で多く見られる、蛇行した河川を人工的に短絡させて農地に転用する工法）の跡があると最近教えていただきました。こんな大規模な工事が重機もない昔に行われていたとは・・・本当に驚きです。

夫は、鳥の観察。ヤマガラを見つけました。また白い清楚なコショウノキを見て感動したようです。

コロナウイルス対策ということでまとまった活動はありませんでしたが、それぞれに活動を楽しめた一日でした。

最後に坂本さんからの沢山のワケギのお土産も頂き、家で家族全員で美味しく頂きました。

(中田 真也子)



マメザクラの花



クロモジの花



スリリングなスハマソウ撮影



ワケギ

○農地での作業

彼岸も近くなると農作業が多くなります。島内の観察もしたかったのですが、季節は待ってくれませんかから取り急ぎ以下の作業をしました。

・ジャガイモ 真鍋さんが試作したいと言っていたのを思い出して、先月高畝を作っておきました。その場所へ今回は本人お気に入り品種（アンデス赤）の種芋を持参してもらい植えつけてもらいました。ジャガイモの新芽は有毒だそうですから、シカがそれを知っていて食べなければよいのですが・・・定番のメイクィーンも植えました。

・里芋 昨年掘り残したまま放置していた株を見ると、子芋は凍傷にもならず新芽を伸ばし始めていましたから、無駄にせず新しい畝に植え替えました。一列で30株ほどです。シカの食害を免れた実績があるので、来月には別品種をもう一列植えたいと思います。

・ネギ 以前、試しに少し植えた物が食害に遭わず生き残っているので、今回100本程追加で補植しました。ネギ坊主が少ない品種ですから夏でも薬味



堆肥の上にジャガイモ植え



堆肥撒いて畝耕し

程度には利用できる筈です。

・山椒 ブルーベリーは新芽が食害を受けて失敗に終わりましたが、その跡地を再利用すべく山椒を島内から移植しました。島内に小苗があったのはシカが食べなかったからだと思い、期待しています。（坂本）

お知らせ

○会員の退会 高橋忠友・洋子夫妻が3月末で退会されます。

高橋夫妻は会創設の2003年4月入会され、忠友氏はトビの巣を発見、発見した際には迷彩テントを張って連日観察・記録するなど、野鳥観察に貢献、洋子さんも定例日以外も島の植物観察に熱心で、当時林内に沢山自生していたカントウカンアオイの多様性に着目してカンアオイの色々な模様集めと編集を手掛けたり、稀少種のプロトスミレを発見・同定するなど多くの貢献をされました。また、数多くの山菜や野菜など美味しく料理して両手にバスケット抱えて持参し、森での昼食を楽しませて下さいました。昼食の楽しみが無くなると、退会を惜しむ声も聞かれます。これからもお元気にご活躍ください。（真鍋）

高橋さん色々ありがとうございました。

高橋さんからの退会届けの中に沢山の郵便切手シートが同封されていました。退会されましても何年かはこの切手を使って会報が届くと思いますので、豊英島の自然と一緒に活動した仲間を思い出して下さい。また、事情が変わりましたら会員に復帰して下さいのを待っています。（坂本）

○4月の活動 4月19日（日）は4月の定例活動日で午前中は年次総会です。午後からは自由散策を予定しています。4月の豊英島はさまざまな動植物の生命にあふれています。年数回しか参加できない方はぜひ4月の参加をお勧めします。島内はまだ台風15号の爪痕が著しく、島内散策だけでもヘルメットは必須ですのでお忘れなく。まだヘルメットの配布を受けていない方は、事前にご連絡ください。当日お持ちします。9時30分に清和自然休養村（農産物直売場）集合です。